

千葉商科大学国府台学会会則（抜粋）

第 2 条 本会は、会員の研究助成とその発表普及を目的とする。

第 3 条 本会は、千葉商科大学の専任教員をもって組織する。

第 4 条 本会は、次の事業を行なう。

1. 機関誌『千葉商大論叢』『千葉商大紀要』の発行。
2. 各種研究会・講演会の開催。
3. その他本会の目的を達成するために適当と認められる事業。

第 5 条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 学長がこれにあたる。
2. 運営委員長 運営委員の互選による。
3. 運営委員若干名 会員総会で選出され任期は 1 年とし本会の事務を分担する。

前 号 目 次

追悼の辞 (In Memoriam of Professor Fumitaka Nishimura)	島 田 晴 雄
西村文孝先生を追悼する	長谷川 博
西村文孝先生の略歴と業績	
巻頭の辞 (Appreciating Contributions of Professor Yoshio Onozuka)	島 田 晴 雄
小野塚芳雄先生：人と学問	齊 藤 壽 彦
小野塚芳雄先生の略歴および業績	

論 説

外部効果を持つ非分割財の公平配分	岡 崎 哲 郎 (1)
地場産業のイノベーションと地域ブランドの活用に関する研究	毒 島 龍 一 (13)
	清 水 康 行
我が国企業年金運用の課題と動態的資産運用管理の可能性について	平 井 友 行 (35)
マクロ経済モデルに関する一考察	
—古典派のマクロ経済モデルとケインジアンのマクロ経済モデル—	本 莊 康 夫 (49)
メルシャン循環取引事件の事例研究	樋 口 晴 彦 (71)
A β -core of Incomplete Information Games	内 海 幸 久 (85)
初級的な簿記検定試験の現状	
—全経簿記検定 3 級の分析—	小 田 徳 仁 (91)
レディー・ガガ対マドンナ	
—21世紀の本質主義は構築主義の仮面をかぶる (その2)	福 田 泰 子 (121)
ドイツにおける株式市場の改革と上場企業の所有構造変化	三 田 村 智 (167)
社会的協力に必要な愛智の基礎	藤 川 吉 美 (185)
そのカネはリアルなのか?	
—虚像のクレジット・デリバティブ市場が企業価値の評価を 困難にする—	矢 澤 健 太 郎 (197)
商業教育における「電子商取引」の役割	
—教科「商業」の新たな実学へのアプローチ—	近 藤 真 唯 (211)

研究ノート

専門経営者による企業統治の功罪	
—情報共有としての日本的経営の再点検—	影 山 僖 一 (225)

そ の 他

国府台学会経済研究会 (第121回)	
マックス・ヴェーバーにおける生活態度論	
—『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』と 『儒教と道教』—	荒 川 敏 彦 (247)
労働時間	佐 藤 哲 彰 (251)